



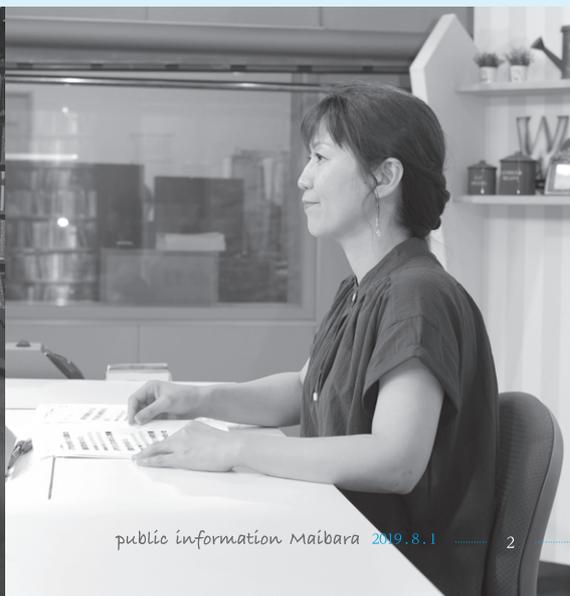
特集

広報



広報とは、その字のとおり「広く^し報せる」こと。
語源は英語の「パブリック・リレーションズ(Public Relations)」。
情報を相互に発信することで、信頼関係をつくっていくという意味合いです。
今回は、市の情報発信についてお届けします。

問 市 情報政策課 (米原庁舎) ☎52-6627 FAX 52-5195





届けたいこと、届けるべきこと。
伝えるために。

情報を届ける

インターネットが発達した今日、私たちは多くの手段により、わずかな時間で情報を得ることができるとなりました。テレビやラジオ、新聞、雑誌、ニュースサイト、SNSなど、さまざまな媒体から情報は流れ込んでいきます。

しかしながら、高齢者や障がい者、外国人にも同じことが言えるでしょうか。高齢や障がいの有無、言語の違いに関わらず、誰もが情報を入手できる環境にすることが必要です。

市では広報誌や伊吹山テレビで市政情報や生活の情報を発信しています。

目の見えない人には広報誌の「音訳」、耳の聞こえない人へは伊吹山テレビの「手話放送」の方法により、情報をお届けしています。また、伊吹山テレビの「文字放送」では、文字や写真を映した画面にナレーションをつけて、視覚・聴覚障がい者どちらにも情報が伝わるようにしています。外国人に対しては、広報誌の内容を抜粋した外国語版(ポルトガル語・中国語)を発行しています。

今回の特集記事は、広報誌や伊吹山テレビなど、情報発信をテーマにお届けします。

① 広報まいばら

毎月1回(毎月最終木曜日発行)

② 伊吹山テレビ

毎週金曜日更新(動画放送15分×2、文字放送30分)
市公式YouTubeチャンネルでも配信

③ 市公式ウェブサイト

随時更新
音声読み上げや翻訳、
文字拡大、表示色変更、ルビ振り機能などに対応



災害時の対応

平成29年に運用を開始した米原市防災アプリでは、スマートフォンやタブレットへ災害情報を直接お届けしています。その情報は文字や音声で確認できるようになりました。自力で避難することができない人などの避難行動要支援者※に対しては、個別避難計画を定めるなど、自治会とも協力しながらサポート体制を整えていきます。

※避難行動要支援者…一人での避難が困難であるなど、避難時や避難所で特に支援・配慮を必要とする人。

米原市防災アプリ

気象警報や緊急情報などは随時配信

問 市 防災危機管理課(近江庁舎)

☎52-6630 FAX 52-6930





広報まいばら音訳ボランティア

お話ボランティアグループ「カナリア」
絵本の読み聞かせ、広報まいばらや議会日より、
社会福祉協議会の広報誌などの音訳を行う。
音訳はこの3人で担当。

結城朝子さん(写真左)、赤尾聡美さん(同中)、増田敬子さん(同右)

「どうしたら上手く伝わるか。意味が正しく伝わるか。とても難しいと感じています」と、みなさん、口をそろえて話します。音訳作業に入る前に、原稿を読み込んで、意味を正しくつかむようにしているそう。文章の区切る位置でも意味が変わってしまうこともあるため、気を付けているのだとか。

また、聞き手のことを考え、音声が届きやすいように、できるだけ雑音が入らないよう気を配っているそう。

みなさん、誰かの役に立ちたいとの思いで、音訳ボランティアを始めたとのこと。 「誰かのためになれている」と思うと頑張れるし、それがやりがいにもなる。音訳の利用がもっと広がってほしい」と、活動についての思いを話してくれました。

◆音訳ボランティアのグループは市内に4つ(カナリア、えん、夢のつばさ、やまびこ)。今月号の音訳はカナリアさんが担当されます。

朗読と音訳は同じ?

→朗読は「読み手の解釈で感情を込めて」

音訳は「一言一句違わず、正確に」

音訳は、主に視覚障がい者が情報を得る手段であるため、主観が入ってはいけません。

利用者の目の代わりとなり、正確に情報を伝えることが求められます。



音訳作業の様子。マイクをつけて、パソコンに録音します。読み間違いを防ぐため、複数人で行うこともあるのだとか。

音訳のご利用は米原市社会福祉協議会(☎55-3933)へお申し込みください。

音訳されていれば、知りたいことを知ることができる 大いに助かっています

米原市視覚障害者福祉協会 会長 廣瀬正美さん



「音訳してもらうことで、大いに助かっています」と話す廣瀬さんは、10年以上前から、広報誌等の音訳を利用しています。新聞や週刊誌、小説などの音訳も利用しているそう。(※)

情報を得るに当たり「もっとこうなればいい」と思うことはあるか問い掛けると、「今のところ、不自由は感じていない」との答えが。「音訳されていれば、知りたい情報のほとんどは知ることができる。逆に言うと、音訳されたものしか分からない。不便といえば、そこが不便かな」。

廣瀬さんが情報を得る手段はラジオや音訳など

の音声情報。「覚えて使う点字と違い、音訳だと、音声を流しておくだけでいい」と話します。

情報発信・情報収集のツールの一つとして、音訳の重要さを改めて感じました。



※廣瀬さんが利用する点字図書・録音図書データベース「サビエ図書館」では、点字・音声データのダウンロードのほか、希望図書のリクエストもできます。

◀片手サイズの専用機も。

問 県立視覚障害者センター ☎0749-22-7901

伊吹山テレビ 手話放送



手話通訳士・滋賀県登録手話通訳者
手話通訳として県立聴覚障害者センターなどから派遣され、
手話講座の講師も勤める。
河崎利江さん(写真左)、増田美智子さん(同中)、中森雅子さん(同右)

伊吹山テレビは、3人の手話通訳士に協力いただき、毎月第2週に手話放送を行っています。

手話には、世代や地域によって多様な表現があるため、「放送収録の前には適切な表現を協議し、米原市に合った、伝わりやすい手話を心掛けています」と話します。外来語などは、そのまま指文字で表すこともあるそうで、広く知られている言葉とそうでない言葉では、表現の方法を変えるのだとか。また、手話通訳の際には手話が見やすいように暗い色の服を着るなど、服装にも気を付けるのだそう。

「手話の正解は一つではありません。世代差や地域差で伝わらないこともあります。米原市のろう者のみなさんとともに、地域に合った伝わりやすい手話通訳を目指していきたいと思っています」。

情報を必要とする人に届く手話はなにか。伝わりやすい手話を常に考える、手話通訳士のみなさんの強い思いがありました。



▲伊吹山テレビ手話放送では、画面右下に手話通訳士を映しています

アナウンスの現場から

アナウンスの際には、読み間違いやアクセントに気を付けています。特に、人名などは読み方を必ず確認して、正しく伝わるよう心掛けています。伊吹山テレビのアナウンサーとして、みなさんの親しみやすい存在であるよう、頑張っていきたいと思っています。

伊吹山テレビ市民リポーター 西川英里さん



お互いに理解して、触れ合っていくことが大切

外国語版 広報まいばら

多文化共生協会では、広報まいばらや学校通信、クリーンカレンダーなどを外国語(ポルトガル語・中国語)に翻訳して発行しています。外国語版の広報誌では、イベント情報や健康診断の案内、子育て関連の情報などを抜粋して掲載しています。親子で楽しめるイベントや生活の情報などが掲載されていると喜ばれるようです。

外国人と接する機会の多い野鹿さんと佐藤さんは、外国人への情報発信や、交流・相談の場が少ないと感じているそう。外国人向けの相談窓口などを充実させる必要があると話します。外国語版広報誌

米原市多文化共生協会 通訳
野鹿照美さん(写真左)、佐藤めぐみさん(同右)



を発行しても、読まれる機会が少ないのだとか。

「外国人も日本人と同じ市民。理解し合って暮らしていければ」と話しました。

※外国語版広報は市役所各庁舎で配架、市公式ウェブサイトに掲載のほか、ポルトガル語版は市内の派遣会社や長浜市のブラジル系雑貨店に配布しています。

外国人転入者へ配布する冊子。健康保険や税金のことについてまとめています。
※希望者にも配布可能です。

問 市人権政策課(米原庁舎)

☎52-6629 FAX 52-4539

